

学生の確保の見通し等を記載した書類

学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

①定員充足の見込み

入学定員は平成21年度に95名から103名、平成22年度に103名から107名に増員し、以降107名で現在に至っている。これに伴い収容定員も順次増加し、平成27年度には662名となった。令和3年度までは年間5名の3年次編入学生を受入れ、令和4年度以降は4名の2年次編入学生を受入れたため、令和4年度収容定員は661名、令和5年度収容定員は660名となった。収容定員に対する在籍学生数は、次表（学生定員及び在学学生数）に示すように、過去11年間適正に管理されており、長期的かつ安定的に学生の確保を図ることができる。と考える。

学生定員及び在籍学生数

| 年度 | 入学定員 | 収容定員 (A) | 在籍学生 総数 (B) | 編入学生 数 (外数) | B/A | 在籍学生数 | | | | | |
|--------|------|-------------|-------------------|-------------------|------|-------|------|------|------|------|------|
| | | | | | | 1学年次 | 2学年次 | 3学年次 | 4学年次 | 5学年次 | 6学年次 |
| R5 | 107 | 660 | 688 | 4 | 1.04 | 109 | 121 | 117 | 120 | 113 | 108 |
| R4 | 107 | 661 | 689 | 4 | 1.04 | 112 | 117 | 119 | 120 | 106 | 115 |
| R3 | 107 | 662 | 686 | 5 | 1.04 | 111 | 113 | 122 | 112 | 113 | 115 |
| R2 | 107 | 662 | 684 | 5 | 1.03 | 111 | 113 | 117 | 115 | 112 | 116 |
| H31/R1 | 107 | 662 | 692 | 5 | 1.05 | 110 | 115 | 118 | 113 | 115 | 121 |
| H30 | 107 | 662 | 690 | 5 | 1.04 | 111 | 111 | 118 | 116 | 118 | 116 |
| H29 | 107 | 662 | 686 | 6 | 1.04 | 108 | 110 | 122 | 118 | 112 | 116 |
| H28 | 107 | 662 | 684 | 5 | 1.03 | 108 | 113 | 122 | 113 | 114 | 114 |
| H27 | 107 | 662 | 681 | 5 | 1.03 | 111 | 114 | 117 | 118 | 110 | 111 |
| H26 | 107 | 658 | 674 | 6 | 1.02 | 111 | 112 | 118 | 113 | 108 | 112 |
| H25 | 107 | 646 | 659 | 4 | 1.02 | 111 | 110 | 117 | 108 | 108 | 105 |
| H24 | 107 | 634 | 649 | 5 | 1.02 | 109 | 110 | 111 | 109 | 102 | 108 |

②定員充足の根拠となる調査結果の概要

1) 地域の医師確保

愛知県との連携により、平成21年度から後期日程（第1段階選抜：大学入学共通テスト、調査書及び志願理由書、第2段階選抜：口頭試問）を実施し、令和5年度からは前期日程（第1段階選抜：大学入学共通テスト、第2段階選抜：個別学力検査、調査書、志願理由書及び面接）の特別枠として実施している。平成22年度には2名増員し5名としたが、募集人員については、次表に示すよう

に、入学志願者数は十分に確保できており、入学者数についても安定していることから、今後もこれまでと同様に学生を確保することができると考える。さらに、入学者には愛知県からの修学資金を貸与することで、学生の負担を軽減できるよう配慮している。

平成23～令和5年度医学部医学科入学試験状況（令和4年度まで後期日程、令和5年度は前期日程）

| 年度 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31/R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|------|-----|------|------|-----|-----|------|-----|------|--------|----|------|-----|-----|
| 募集人員 | 5名 | 5名 | 5名 | 5名 | 5名 | 5名 | 5名 | 5名 | 5名 | 5名 | 5名 | 5名 | 5名 |
| 志願者 | 43 | 63 | 52 | 41 | 65 | 78 | 60 | 53 | 67 | 55 | 54 | 38 | 23 |
| 入学者 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 3 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 志願倍率 | 8.6 | 12.6 | 10.4 | 8.2 | 13 | 15.6 | 12 | 10.6 | 13.4 | 11 | 10.8 | 7.6 | 4.6 |

2) 研究医養成

平成22年度から、それまで10名で募集していた学校推薦型選抜（第1次選考：大学入学共通テスト、調査書、志願理由書及び推薦書、第2次選考：プレゼンテーション及び口頭試問）に研究医枠の2名を加え、12名の募集人員としているが、十分な倍率により入学者選抜を実施することができていることから、令和6年度においても多くの志願者数の確保が見込まれる。

次表に示すように、入学志願者数は十分確保できており、入学者数についても安定していることから、今後もこれまでと同様に学生を確保することができると考える。

平成23～令和5年度医学部医学科入学試験状況（学校推薦型選抜）

| 年度 | H23 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31/R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|
| 募集人員 | 12名 | 12名 | 12名 | 12名 | 12名 | 12名 | 12名 | 12名 | 12名 | 12名 | 12名 | 12名 | 12名 |
| 志願者 | 32 | 36 | 35 | 26 | 27 | 26 | 31 | 32 | 27 | 19 | 28 | 17 | 31 |
| 入学者 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 | 12 |
| 志願倍率 | 2.7 | 3 | 2.9 | 2.2 | 2.3 | 2.2 | 2.6 | 2.7 | 2.3 | 1.6 | 2.3 | 1.4 | 2.6 |

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生募集に当たり、学部情報及び入試情報について、学生募集案内、学生募集要項及び学部案内の配布、ホームページの充実、オープンキャンパスの開催、企業、予備校等が企画する進学相談会への資料提供を行うなど、多くの受験希望者やその関係者に入学試験内容、本学部の特色や教育内容に関する情報を発信し、志願者確保に努めている。

人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

今日の日本の医療は、ますます高度化するとともに、社会からの需要は多様化し量的にも増加している。必要な医療を適正に提供するためには、多様な医師の確保が必要不可欠な状況である。

このような医療を取り巻く状況に対応するため、名古屋大学医学部医学科では、愛知県との連携による寄附講座である地域医療教育学寄附講座を設置して、地域医療を担う指導的・中心的人材の育成の使命を果たし、地域医療に従事する明確な意思をもった学生を、一般枠とは区別した特別枠として受け入れ、人材の地域定着を図っている。

また、平成 20 年度入試から、推薦選抜に関し、「特に医学研究者への志向性を持ち、例えば本学の MD - PhD コースへの進学を希望するような人材」を出願資格・要件として求めていることを入学者選抜要項及び学生募集要項に明記して募集を行っている。平成 22 年度入試からは、「研究医養成のための入学定員増」分 2 名を加え、計 12 名を研究医枠として募集し、育成している。

(2) 上記（1）が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

愛知県の医師数は、増加の傾向にあるものの、厚生労働省による「医師・歯科医師・薬剤師調査」によると、令和 2 年時点で、愛知県の人口 10 万人あたりの医療施設従事医師数は、224.4 人と、全国平均 256.6 人と比較し、医師不足問題は解決されたとは言い難い状態が続いている。

また、年間 4 名程度（平均）の医学科卒の基礎系大学院進学者数を過去 10 年間維持し、進学時期も卒後早期に移行しつつあることや、附属病院における臨床研修で基礎医学研究医育成プログラムを選択する者が増加傾向にあるなど、研究医数の低下傾向に歯止めがかかる見込みをようやく立てることができている状況にあるものの、研究力を高めるためにはまだ十分とは言えない状況である。